

◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(10歳未満女性)ありました。本年の累積報告数は30例となりました。発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については、下記URLを御参照ください。
○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- レジオネラ症の報告が3例(70歳代男性2例及び80歳代女性1例)ありました。本年の累積報告数は24例となりました。
- ウイルス性肝炎(B型)の報告が1例(20歳代男性)(第40週追加報告分)あり、症状は全身倦怠感、嘔吐、黄疸です。感染地域は国内、感染経路は不明です。本年の累積報告数は5例となりました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が3例(60歳代男性、80歳代男性及び90歳代男性各1例)あり、症状は発熱、菌血症等です。感染地域は全て国内です。本年の累積報告数は58例となりました。
- 梅毒の報告が1例(20歳代男性)ありました。症状は無症候、感染地域は国内、感染経路は不明です。本年の累積報告数は56例となりました。
- 百日咳の報告が3例(10歳代女性及び10歳代男性2例)(第40週追加報告分含む)ありました。いずれも症状は持続する咳等、感染地域は国内です。本年の累積報告数は56例となりました。

◆ 今週のトピックス:<水痘>

本年第36週から、水痘の警報・注意報の基準値が変更になり、警報開始:2、警報終息:1、注意報:1となりました(変更前はそれぞれ7、4、4)。これは、水痘ワクチンが平成26年10月から小児の定期接種に導入され、全国的に報告数が減少したことが大きな理由の一つです。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 5例(肺結核 2例、肺外結核 1例、潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性なし
【1月以降の累積報告数 257例(肺結核 117例、その他結核 64例、潜在性結核感染者 76例)うち喀痰塗抹陽性 63例】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数30例】
- 四類:レジオネラ症 3例【1月以降の累積報告数 24例】
- 五類:ウイルス性肝炎(B型) 1例【1月以降の累積報告数 5例】
- 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 3例【1月以降の累積報告数 58例】
- 五類:梅毒 1例【1月以降の累積報告数 56例】
- 五類:百日咳 3例【1月以降の累積報告数 56例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69、小児科定点43、眼科定点10、基幹定点1)

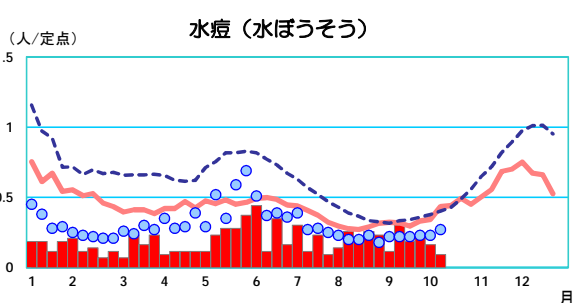
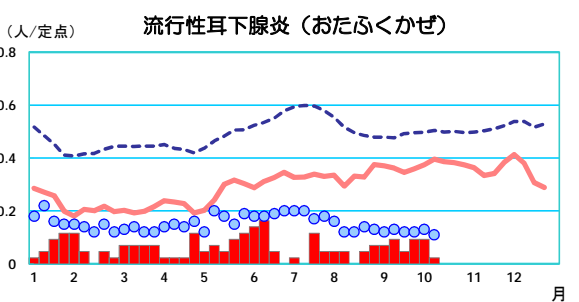
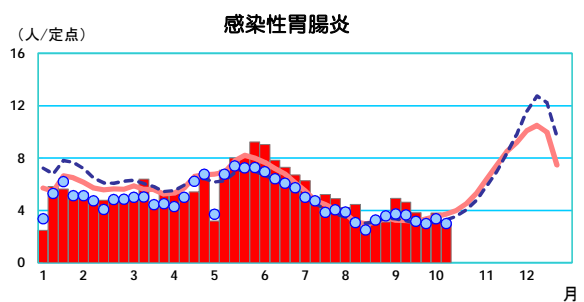
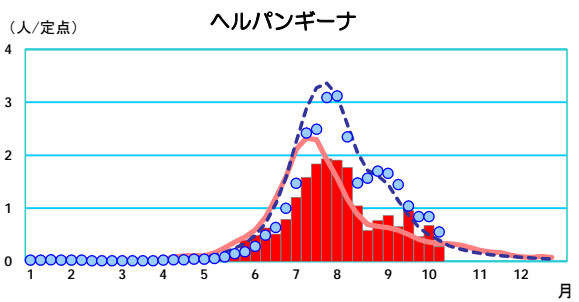
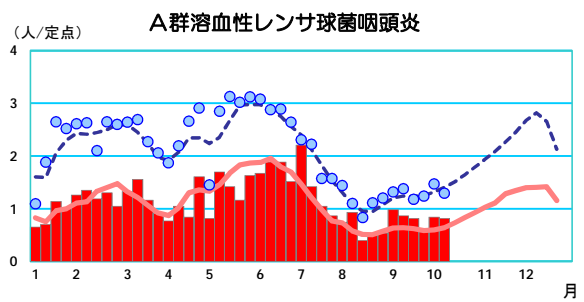
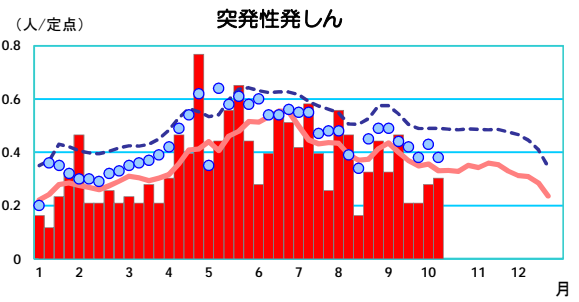
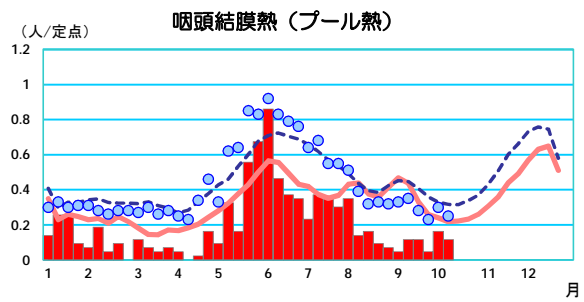
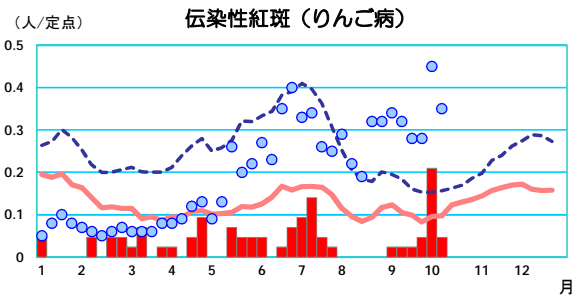
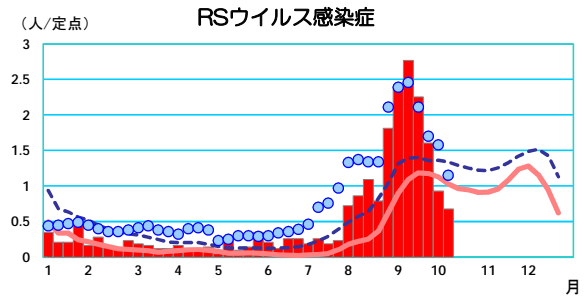
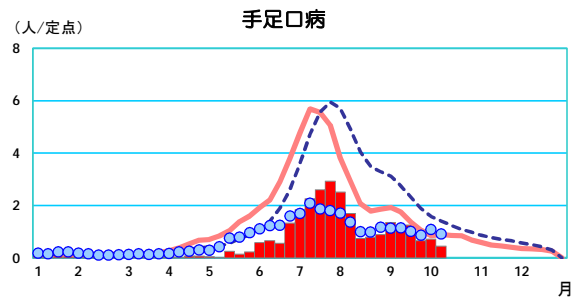
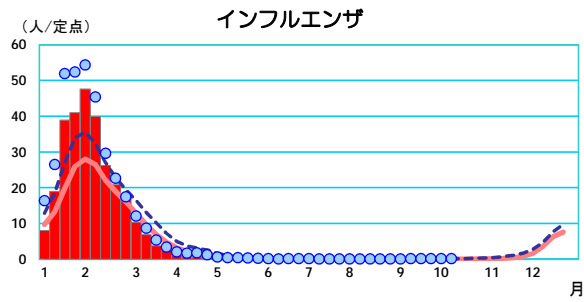
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.03	2
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.93	126
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.81	35
	③ RSウイルス感染症	0.67	29
	④ 手足口病	0.44	19
	⑤ 突発性発しん	0.30	13
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<水痘>
付表(疾病、行政区別報告数 / 年齢階級、疾病別報告数 / 週、疾病別報告数)

(注)京都市のデータは、平成30年10月17日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。
* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成30年）



第41週(10月8日～10月14日)トピックス: <水痘>

京都市の水痘の定点当たり報告数は0.09(4例)で、前週より減少しました。全国では0.27となっており、京都市、全国とも過去5年平均値を下回って推移しています(図1)。

本年第36週から、水痘の警報・注意報の基準値が変更になり、警報開始:2、警報終息:1、注意報:1となりました(変更前はそれぞれ7、4、4)。これは、水痘ワクチンが平成26年10月から小児の定期接種に導入され、全国的に報告数が減少したことが大きな理由の一つです。

水痘は第五類感染症の定点把握感染症*となっており、全国約3,000箇所の小児科定点医療機関(指定届出機関)から週毎に報告があります。全国の小児科定点から報告される水痘患者数の推移をみると、平成11年から23年までは年間20万～28万人でした。平成24年には20万人を下回り、26年には約16万人となりました。平成26年10月に水痘ワクチンが定期接種となり、報告数はさらに大きく減少して27年には8万人を下回り、28年は約6万5千人、29年は約6万人となっています(図2)。

京都市の本年の水痘の発生状況に改めて新たな基準値をあてはめてみると、京都市として警報又は注意報に相当する週はありませんでした。行政区別では、上京区は第21及び32週に、左京区は第35、37、38及び39週に、中京区は第19及び34週に、山科区は第11週に、南区は第20週に、右京区は第5、22及び23週に、伏見区は第25週にそれぞれ注意報に相当する報告がありました(表1)。

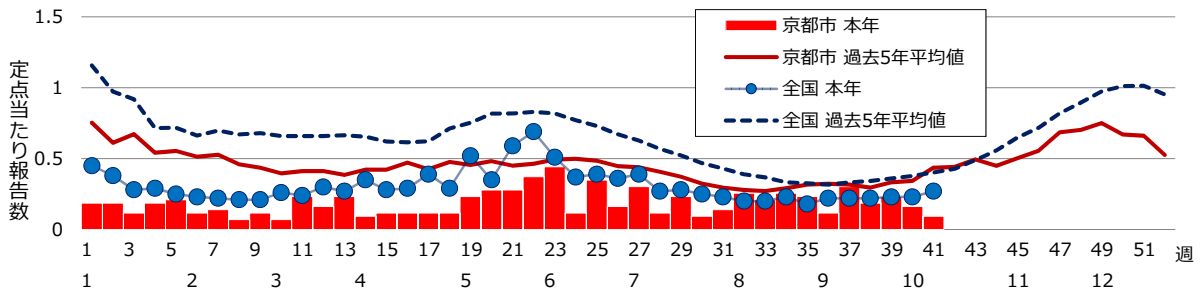
水痘は一般的には「みずぼうそう」と呼ばれ、水痘帯状疱疹ウイルスを原因として起こる疾患で、ヒトからヒトへ接触や飛沫あるいは空気感染によって広がります。感染力は非常に強く、ワクチンを接種していない場合、約8割の小児が罹るとされています。潜伏期間は通常2週間程度です。

その症状は通常全身性で、痒みのある発疹が見られた後、紅斑、丘疹を経て3～4日で水疱となり、その後痂皮化(かさぶた化)します。発熱や倦怠感を伴う場合もあります。一般に成人の方が子どもより重症化しやすく、発疹出現前に発熱や倦怠感を伴う場合があります。治癒後は終生免疫を獲得します。まれに二次性細菌感染や中枢神経系症状を合併する場合があります。また、学校保健安全法では第2種感染症に指定されており、原則としてすべての発疹が痂皮化するまで出席停止となっています。

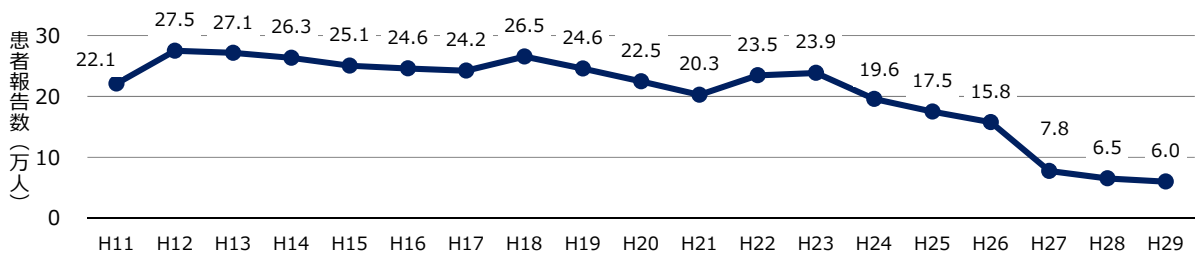
水痘ワクチンは弱毒生ワクチンで、定期接種では2回接種します。接種対象は1歳から3歳の誕生日の前日までの方で、標準的な定期接種期間では、1回目を1歳から1歳3箇月に、2回目を1回目の接種後6箇月から12箇月の間隔をおいて接種します。定期接種以外は任意接種となりますが、1回の接種で90%以上が抗体を獲得するとされています。

*ただし入院を要する水痘は全数把握疾患で、診断した全ての医師から報告があります。

(図1) 京都市及び全国の定点当たり報告数の推移



(図2) 全国の患者報告数の推移



(表1) 京都市の行政区別定点当たり報告数の推移(平成30年)

	5週	11	19	20	21	22	23	24	25	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41週
北区	0.3	-	-	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.3	-	-
上京区	0.3	-	-	0.3	1.0	0.7	-	-	-	1.0	-	-	0.3	-	0.7	-	-	-	-
左京区	-	-	0.3	-	-	0.5	0.3	0.3	-	-	0.3	-	1.0	0.5	1.5	1.3	1.5	-	-
中京区	-	-	1.0	-	0.7	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
東山区	-	-	0.5	-	0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科区	-	1.8	0.2	-	-	0.6	0.6	0.2	-	-	-	0.2	0.2	-	-	-	-	-	0.2
下京区	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南区	-	-	-	1.7	-	-	-	-	-	0.3	0.3	-	0.3	-	-	-	-	-	-
右京区	1.0	-	0.4	0.2	0.2	1.2	1.0	-	0.8	-	-	0.2	0.2	-	0.6	-	-	0.6	0.4
伏見区	-	-	0.3	0.3	0.6	0.3	0.9	0.4	1.0	0.9	0.7	0.6	0.3	0.1	0.3	0.1	0.4	0.4	0.1
西京区	0.4	0.2	-	0.4	0.2	0.2	0.8	-	0.8	0.2	0.4	0.4	-	0.4	-	0.4	-	0.2	-
京都市	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3	0.4	0.4	0.1	0.3	0.3	0.2	0.3	0.2	0.1	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1

報告数1以上(注意報相当)は太字で表示、数値表示は小数第二位を四捨五入、第32週以前で注意報に相当する報告がない週は省略

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第41週

疾病,行政区別報告数

平成30年10月8日～平成30年10月14日

データ入手日:平成30年10月17日

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	1	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	4					
北	-	1	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	4					
上京	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-					
左京	-	4	-	11	35	-	8	-	1	-	-	-	-					
中京	-	3	1	3	4	-	1	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
東山	-	1	-	-	8	-	1	-	-	1	-	-	-					
山科	-	1	-	3	3	1	-	1	3	2	-	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
南	-	1	-	1	5	-	5	-	1	3	1	-	-					
右京	-	5	2	8	10	2	1	-	3	2	-	-	-					
伏見	2	9	-	6	43	1	3	-	5	3	-	-	-					
西京	-	4	2	3	11	-	-	-	-	-	-	-	-					
京都市計	2	29	5	35	126	4	19	2	13	12	1	-	5	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ(※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	0.25	-	-	0.25	-	-	-	-	0.25	-	-	4.00					
北	-	0.25	-	-	0.25	-	-	-	-	0.25	-	-	4.00					
上京	-	-	-	-	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-					
左京	-	1.00	-	2.75	8.75	-	2.00	-	0.25	-	-	-	-					
中京	-	1.00	0.33	1.00	1.33	-	0.33	0.33	-	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-
東山	-	0.50	-	-	4.00	-	0.50	-	-	0.50	-	-	-					
山科	-	0.20	-	0.60	0.60	0.20	-	0.20	0.60	0.40	-	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
南	-	0.33	-	0.33	1.67	-	1.67	-	0.33	1.00	0.33	-	-					
右京	-	1.00	0.40	1.60	2.00	0.40	0.20	-	0.60	0.40	-	-	-					
伏見	0.18	1.29	-	0.86	6.14	0.14	0.43	-	0.71	0.43	-	-	-					
西京	-	0.80	0.40	0.60	2.20	-	-	-	-	-	-	-	-					
京都市計	0.03	0.67	0.12	0.81	2.93	0.09	0.44	0.05	0.30	0.28	0.02	-	0.50	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第41週

年齢階級, 疾病別報告数

平成30年10月8日～平成30年10月14日

データ入手日:平成30年10月17日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上							
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	2	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
RSウイルス感染症	年齢3	29	4	7	11	5	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		5	-	-	1	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		35	-	-	-	-	2	5	4	7	5	2	2	7	-	1	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		126	3	6	20	16	11	8	8	10	8	8	5	9	4	10	-	-	-	-	-	-	-
水痘		4	-	1	1	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		19	-	1	6	7	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		2	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		13	-	2	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		12	-	1	5	4	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	5	-	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上							
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	0.03	-	-	-	-	-	-	0.01	-	0.01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
RSウイルス感染症	年齢3	0.67	0.09	0.16	0.26	0.12	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		0.12	-	-	0.02	-	-	0.02	0.02	-	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.81	-	-	-	-	0.05	0.12	0.09	0.16	0.12	0.05	0.05	0.16	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		2.93	0.07	0.14	0.47	0.37	0.26	0.19	0.19	0.23	0.19	0.19	0.12	0.21	0.09	0.23	-	-	-	-	-	-	-
水痘		0.09	-	0.02	0.02	-	-	-	0.02	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.44	-	0.02	0.14	0.16	0.09	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		0.05	-	-	-	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.30	-	0.05	0.26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.28	-	0.02	0.12	0.09	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.02	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	0.50	-	-	0.10	-	-	0.10	0.10	-	-	-	-	0.10	-	-	-	-	-	0.10	-	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第41週

週, 疾病別報告数

データ入手日:平成30年10月17日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	-	11	11	4	3	2
RSウイルス感染症	103	119	97	69	40	29
咽頭結膜熱	2	5	5	2	7	5
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	42	37	35	24	36	35
感染性胃腸炎	212	199	164	143	163	126
水痘	5	13	8	10	7	4
手足口病	58	47	54	28	31	19
伝染性紅斑	1	1	1	2	9	2
突発性発しん	14	20	9	9	12	13
ヘルパンギーナ	37	28	41	20	29	12
流行性耳下腺炎	3	4	2	4	4	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	12	11	12	13	5
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	482	496	438	327	354	253

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	-	0.16	0.16	0.06	0.04	0.03
RSウイルス感染症	2.40	2.77	2.26	1.60	0.93	0.67
咽頭結膜熱	0.05	0.12	0.12	0.05	0.16	0.12
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.98	0.86	0.81	0.56	0.84	0.81
感染性胃腸炎	4.93	4.63	3.81	3.33	3.79	2.93
水痘	0.12	0.30	0.19	0.23	0.16	0.09
手足口病	1.35	1.09	1.26	0.65	0.72	0.44
伝染性紅斑	0.02	0.02	0.02	0.05	0.21	0.05
突発性発しん	0.33	0.47	0.21	0.21	0.28	0.30
ヘルパンギーナ	0.86	0.65	0.95	0.47	0.67	0.28
流行性耳下腺炎	0.07	0.09	0.05	0.09	0.09	0.02
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.50	1.20	1.10	1.20	1.30	0.50
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	11.59	12.36	10.93	8.49	9.20	6.25

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。